

1. 水辺のありかたを議論する場：ミズベ会議等の概要

地域のステークホルダー、水辺でなにかをやりたい主体、まちづくりの主体、行政などが和歌山の水辺の未来について、未来志向で語り合える会議等を開催した。これは、なるべく多くの人からわかやまの水辺のあり方をヒアリングするための試みでもあるが、同時に多くの人々に水辺に関心をもってもらい、和歌山の水辺の未来を多くの人々に「自分事」のように感じてもらうための取り組みである。(所属、役職等は実施日当時で記載)

ミズベドリンクス：泉氏

1.1. ミズベドリンクス

- ・開催日時：2016年12月19日(月) 18:30～
- ・場所：BAR NO. 11 (パール・ヌメロオンセ)
- ・ゲストスピーカー：泉 英明氏／都市プランナー
- ・主な内容
 - ・トーク 「水都大阪のはじまりから裏話」 泉 英明氏
 - ・7人の登壇者によるプレゼンテーション：「和歌山の水辺なう」 Powered by PechaKucha
- ・参加人数：73名



ミズベドリンクスの様子



1.2. 第1回ミズベ会議

- ・開催日時：2017年1月25日(水) 18:30～
- ・場所：みんなの学校2階
- ・ゲストスピーカー：松本 拓氏／北浜水辺協議会理事
- ・主な内容
 - ・前回の振り返り
 - ・プレゼン「内川のこれまでの活動について」野井和重氏
 - ・講演「北浜テラスとバックキャストिंग的手法について」松本 拓氏
 - ・ワークショップ「MZB48」水辺でやりたい事！
 - ・目的の説明
 - ・ワークショップセッション
 - 「わたしならこうする！ MZB48」：4チームに分かれてワークショップ
 - ・シェアタイム&まとめ
 - ・プレゼン「オープンイノベーションについて」岩本唯史氏
- ・参加人数：75名

第1回ミズベ会議 WS の様子



第2回ミズベ会議 WSの様子

1.3. 第2回ミズベ会議

- ・開催日時：2017年2月10日（金）18:30～
- ・場所：みんなの学校2階
- ・ゲストスピーカー：泉山墨威氏／（一社）パブリックプレイ
パートナーズ代表
- ・主な内容
 - ・前回の振り返り
 - ・プレゼン「ここまで調べました」
 - ・講演「タクティカルアーバニズムとはなんだ？」 泉山墨威氏
 - ・ワークショップ「使う人をイメージしてみよう」
 - ・自己紹介と「まとめ」の意見集約
 - ・「利用する人目線で考える」「市堀川をつかいこなすひとのイメージをしよう」
：4チームに分かれてワークショップ
 - ・シェアタイム
- ・参加人数：45名



1.4. ミズベシンポジウム

- ・開催日時：2017年3月12日（日）14:30～
- ・場所：東ぶらくり丁特設会場
- ・ゲストスピーカー：
 - ・田中里佳氏／国土交通省水管理・国土保全局河川環境課課
長補佐
 - ・辻田昌弘氏／東京大学公共政策大学院特任教授
- ・主な内容
 - ・前回の振り返り
 - ・講演「官民連携の最新動向とオープンイノベーション」 辻田昌弘氏
 - ・「ミズベリングプロジェクトとかわまちづくりについて」 田中里佳氏
 - ・フィッシュボール「和歌山の水辺からはじまる素敵な未来について」
 - ・タスクフォースの発表
- ・参加人数：62名
- ・同時開催：メガサップボード体験会（日本シティサップ
協会）

ミズベシンポジウム



ミズベシンポジウム同時開催 ：メガサップボード体験会



1.5. 第3回ミズベ会議

社会実験実施にあたり、これまでの取り組みと先行事例を紹介し、市民が主体的に水辺のまちづくりに参加するためのきっかけ作りを行うために第3回ミズベ会議を実施した。

- ・開催日時：2017年8月3日（木）18:30～21:00

- ・場所：みんなの学校 2 階
- ・ゲストスピーカー：田中謙次氏／一般社団法人環境文化研究所代表理事、日野川流域交流会幹事
- ・主な内容
 - ・水辺プロジェクトのこれまでの取り組み
 - ・昨年の振り返り
 - ・講演「霞が関が驚いた！リバービジネス創出にむけた取り組み」田中謙次氏
地元福井県越前市の事例等を交えて講演
 - ・2017 年 9 月末より開催する社会実験について説明
 - ・グループワーク：「食」「環境」「水上アクティビティ」「イベント」の 4 つのグループで、ディスカッション、発表



1.6. わかやま水辺協議会（仮称）創設に向けた意見交換会

河川敷地占用許可準則が改正され、公共機関しか使えなかった、河川空間を民間が使えるようになり、河川空間のオープン化が進んでいる。河川を使って町の魅力を盛り上げて行くためには、中心市街地がどうあって欲しいかそれに向けた水辺がどうあって欲しいかを考えるのが協議会の役割である。それについての意見交換会を実施した。

- ・開催日時：2018 年 1 月 25 日（木）1 回目 16:00～17:30 2 回目 18:30～20:00
- ・場所：みんなの学校 2 階
- ・ゲストスピーカー：内山泰博氏／大阪市大正区役所副区長
- ・主な内容

- ・講演：内山泰博氏：大正区の尻無川での活動紹介：
2012 年 5 月に地域の合意も得ていない中だったが区長がやりたいと、白鳥のペダルボートを浮かべたところ、京セラドームに行く人が興味を示し 500 人くらい集まりポテンシャルを感じスタートした。大正リバーサイドポセイドンでは 1 万人以上の来場など実績を積み上げた。準則特区を取り都市・地域再生等区域指定を受け平成 27 年 6 月～10 月まで社会実験を実施した。区の PR もしっかりとし平成 29 年は人口が増加に転じた。



- ・他都市の事例紹介
- ・意見交換会

ある住民の方は「音楽が家の中にズカズカ入ってくる。日常生活ができない。切実なお願いである。悲しい思いをしている。最低限のお願いが来て来た。」と訴える場面があった。

大江さん（社会実験で常設の SUP カフェを営業）は、「思ったより人通りが少なく SNS 発信もしたが、何をやっているのか伝わってなかった。自分たちもあの場所をやっ

きながら作っていき、完成した頃には終了、というような感じがした。認知されるまで続けて行くことで来客も増えていった。時間がかかる取り組みだと思う」と語った。

他にも「観光資源として和歌山市の取り組みに注目しているが、かなり長期で取り組んで行く必要がある」との意見もあった。

- ・参加人数：1回目 23 人、2回目 15 人 事務局 7 人 大正区 3 人 他市職員数名

1.7. 水辺交流会「わかやまミズベ MEET UP」

今年度実施した社会実験の成果報告を周知し、水辺に対する社会的関心を高める機会とするために水辺交流会を実施した。

- ・開催日時：2018 年 2 月 17 日（土）14:00～17:30

- ・場所：フォルテワジマ 4 階イベントホール

- ・ゲストスピーカー、パネリスト：

- ・島原万丈氏／HOMES' 総研所長
- ・中村孝一氏／富山観光遊覧船株式会社代表取締役、“水の都とやま”推進協議会 理事
- ・中村青児氏／富山観光遊覧船株式会社常務取締役
- ・田中里佳氏／ミズベリングアドバイザー
- ・豊田英三氏／ユタカ交通株式会社代表取締役社長
- ・吉川誠人氏（わかやま水辺プロジェクト 代表）

- ・主な内容

第 1 部

- ・わんだーらんどによる漫才「和歌山の水辺イメージ」
- ・プロジェクトメンバーからの趣旨説明
- ・講演「まちの魅力をはかる新しい物差し～センシユアスな街がつくる豊かな未来」島原万丈氏

「センシユアス・シティ・ランキング」についてお話され、まちの魅力は、人口比による保育園やお店、病院数、公園の広さなどで測るのではなくて、感覚や身体、五感やアクティビティ、関係性（コミュニティに帰属しているか、神社やお寺に参拝しているか、地域のイベントやボランティアなどに参加しやすいか）などの評価基準で住みたい・快適な都市をランク付けするべきだと話された。

- ・プロジェクトメンバーからの社会実験レポート
- ・パネルトーク「市堀川の通信簿～和歌山の水辺はセンシユアスに生まれ変わるか」：島原万丈氏、田中里佳氏、吉川誠人氏登壇
- ・伏虎義務教育学校の 6 年生児童からの研究・発表

市堀川だけではなく、大門川・和歌川・和田川・土入川・千手川などでも水質やゴミの調査をした結果や、学校で水族館を実施した話など報告。また 3 月 3 日と 4 日に歩く教室を実施するので参加者を募集した。

第 2 部

- ・わんだーらんどによる漫才「船を浮かばせてみたら、客がたくさんくる？」



- ・講演「遊覧船をはじめることについて、そして今日的な課題」中村孝一氏
富山市のドブ川だった松川を再生し、遊覧船を立ち上げるにあたり、サンアントニオを参考にしたことや、人力で浚渫をして体を壊したことで県が動いたこと、経済的な側面からのお話などお話をされた。
- ・パネルトーク「だれがやる？和歌山の水辺の魅力づくり」中村孝一氏、中村青児氏、豊田英三氏、吉川誠人氏登壇
ユタカ交通の豊田英三さんは、経営者として県や市と民間企業の提携や参入についてのお話や、遊覧船を運行する上での問題点などお話しされた。
- ・タスクフォースめぐりパネルを使って検証
- ・意見交換
「世界一統」の南方雅博さんは、市堀川の土手に日本酒テラスやお店などを作る計画を実行に移していければと発言された。足漕ぎのスワンボートの可能性や、桜や花を植えて環境をよくしたり、水質をよくしたりしていきたいという意見、和歌山の川といえど紀の川なので、堰を開閉式にし、遊覧船や水上バスでも行き来出来るようするとか、紀の川の活用方法も考えた方が良くという意見もあった。

- ・アンケート結果：8割の方が良かったと評価、水辺のまちづくりへ期待しているし、関わりたいと思っている方が8割を超えた。

1.8. 和歌山水辺観光フューチャーセッション vol.1

・開催日時：2018年6月20日(水) 18:00~20:00

・場所：Luida

・主な内容

・挨拶「和歌山の未来予測」竹家正剛氏／和歌山市
市長公室政策調整課

・レクチャー「あなたがやるなら、わたしもやる。
官民連携のまちづくりとは？」岩本唯史氏／株
式会社水辺総研

・活動紹介「これまでの水辺空間を生かしたまちづくりの推移」吉川誠人氏／紀州まち
づくり舎

・グループセッション「10年後の和歌山水辺を妄想しよう」

・ワークショップセッション 3セット

・グループの発表

・参加人数：32名



1.9. 和歌山水辺観光フューチャーセッション vol.2

・開催日時：2018年8月8日(水) 18:00~19:50

・場所：Luida

・ゲストスピーカー：岸本しおり氏／(有)ハートビートプラン

・主な内容

・アイスブレイクレポート「世界一予約が取れないレストラン **NOMA** とデンマークの食
文化政策」岸本しおり氏

・前回の振り返り

・事務局でここまでやっておきました！ 10/20のプラン発表！

・グループセッション「妄想が実現されるために、いまやれること、明日やれること」

・グループの発表

・参加人数：30名



1.10. 水辺オープンミーティング

水辺プロジェクトでは週に1回程度定期的に打合せを行っているが、そのミーティングを時々公開でオープンミーティングを開催した。「水辺に関係する事業者の皆様、水辺に興味のある一般市民の方々、どなたでも何度でも参加可能、時間中出入り自由。ただ聞いているだけでもよし、何か提案してみるのもよし、意見を言うのもよし」として、1~2か月に1回程度、開催した。

○7/4 水辺オープンミーティング

- ・開催日時:2018年7月4日(水)19:00~20:30
- ・場所:NPO 法人市民の力わかやま

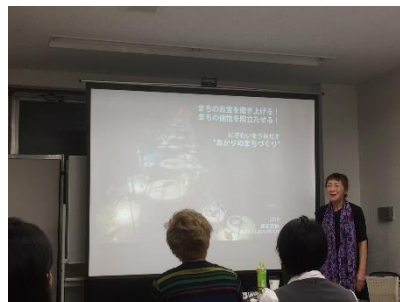


○9/7 水辺オープンミーティング

- ・開催日時:2018年9月7日(水)19:00~20:30
- ・場所:NPO 法人市民の力わかやま

○10/3 水辺オープンミーティング

- ・開催日時:2018年10月3日(水)19:00~20:30
- ・場所:NPO 法人市民の力わかやま
- ・ゲストスピーカー:長町志穂さん/照明デザイナー、株式会社 LEM 空間工房代表取締役



○12/5 水辺オープンミーティング「わかやま水辺チャレンジ報告会」

- ・開催日時:2018年12月5日(水)19:00~20:30
- ・場所:和歌山市役所14階大会議室

○2/13 水辺オープンミーティング「水辺ビジョンプレビュー」

- ・開催日時:2019年2月13日(水)19:00~20:30
- ・場所:和歌山市役所14階大会議室

2. 未来像：仮説

2016 年度に 3 回にわたって開催された水辺のワークショップ（ミズベドリンクス 1 回、水辺会議 2 回）でたくさんの方々からいただいた、和歌山市の水辺の将来への思いを事務局で分類整理すると、こんな価値観を大切にしたいという 12 のバリュー（価値）と、8 つの支える仕組みに分けられた。それを、根から茎、葉っぱで大きな花を咲かせるという「わかやまに咲く水辺の花」大作戦というひとつの絵とした。

「わかやまに咲く水辺の花」大作戦は、水辺の未来を、将来咲く大輪の花にたとえ、それを太い幹と立派な葉っぱと根っこで支えるというもの。

ひとつひとつの花びらは 12 のビジョン、茎と根っこは花の中心は、8 つの支える仕組みを示す。



2.1. 12の目標像

1 きれいな川、綺麗な水にしたい 豊かな自然環境にしたい

- さわれる
- およげる
- 魚釣りが楽しめる
- 流れがある



ワークショップで多くの人々から聞かれた、きれいな川を実現したいという思い。

さわれる、およげる、魚釣りが楽しめる、流れを復活させたい、というさまざまなアクションを実現させながら、川を多様な主体で綺麗にする。きれいな川をつくりたいという価値観。

2 居場所作り

- 椅子
- サンドイッチもって座れる
- 子供が安全に遊べる
- 立ち止まりたくなる場所



水辺が都市のなかにあらたに生まれる居場所になるのではないかという期待がワークショップで聞かれた。

椅子があってサンドイッチを持って食べられる。子供が安全に遊べたり、ちょっと立ち止まりたくなったりする場所になることが望ましいという価値観。

3 クルーズができる楽しめる街にしたい

- イベントの船交通
- レストラン船などの日常利用
- 日常使いの船交通



市堀川を江戸時代のように船でたのしめる時代に対する渴望がワークショップで明るみになった。

イベントとしての船はすでに実現しているが、日常使いの船の交通やレストラン船としての魅力的な事業が創出できるといいなという価値観。

4 緑の環境づくり

- 芝生の広場
- 野花
- 桜を植える
- 食べられるガーデン



和歌山市の中心市街地のなかで数少ない自然を感じることができる場所である水辺を、よりグリーンにしたいという思いがある人がたくさんいることが確認できた。

緑を水辺で増やしたいという価値観。

5 水上アクティビティがある街にしたい

- SUP、カヌーなどの手漕ぎ
- スワンボート、貸しボート
- ウォーターボール
- ジェット、パワーボート、外洋へ



まちなかの水辺でアクティビティをやりたい、やる環境がうまく出来たら楽しいに違いない、という意見が沢山聞かれた。

そのような体験ができるまち、という新たな価値を和歌山市が獲得する未来。

6 納屋河岸マルシェのにぎわいづくり

- 短期的なマルシェの盛り上がり
- 日常的なマルシェ開催
- 周辺の商業にも好影響をあたえる



過去、城下町和歌山の水辺で繰り広げられた、河岸。納屋河岸を復活させたいという思いをもった方がおられた。

日常的に商空間として水辺が豊かだと思える人々の価値観と統合して、過去あった河岸の現代的なもの（マルシェ）があったらいいなという価値観。

7 歩ける水辺、走れる水辺。健康な水辺

- 毎朝ウォーキング
- ウォーキングをしたくなる環境整備
- フットパスを町中にもつなげて整備
- 日常でつかえる水辺の道



単に歩ける水辺でいい、ウォーキングしなくなるような環境を獲得するという価値観が聞かれた。

そういう体験が日常的にあつて、それを想像して維持するという価値観。

8 いろんなイベントがおこなわれる水辺であってほしい。

- 花火、映画鑑賞
- フェス。食フェス
- 水上パレード



ひとびとがあつまり、なにかを共に体験できるような場所としての水辺。そのような華やかな場所であってほしい、という価値観。

9 食文化が育まれる水辺

- フードカー
- 川床料理
- 牡蠣船
- フィンガーフード



水辺で食事がしたい、そんな場所がほしいという価値観。かつて川沿いに魅力的な飲食店が生まれ、現在でもその伝統を引き継ぐ店もある。

水辺からあらたな和歌山の食文化をつくる、それが和歌山市の新たな価値になる。

10 和歌山レガシー

- 和歌山の歴史とつなげる
- 来歴に沿った水辺のあたらしい姿
- 和歌山城とつなげる



お城とともに歩んできた市堀川。城下町和歌山の歴史性に着目し、その歴史とうまく繋がっているということ、大切にしたいという価値観。

11 夜も楽しめる水辺

- 飲み屋、BAR
- 夜も明るい



水辺のまちづくりにおいて、昼だけではなく夜も大切にしたい、という価値観。

すでに魅力的な飲食店が水辺にいくつかできてきたことをさらに発展させて、公共空間が歩きやすくセンシユアスになって、飲食店の魅力とともに、たくさんのひとを惹きつけるイメージ。

12 学び

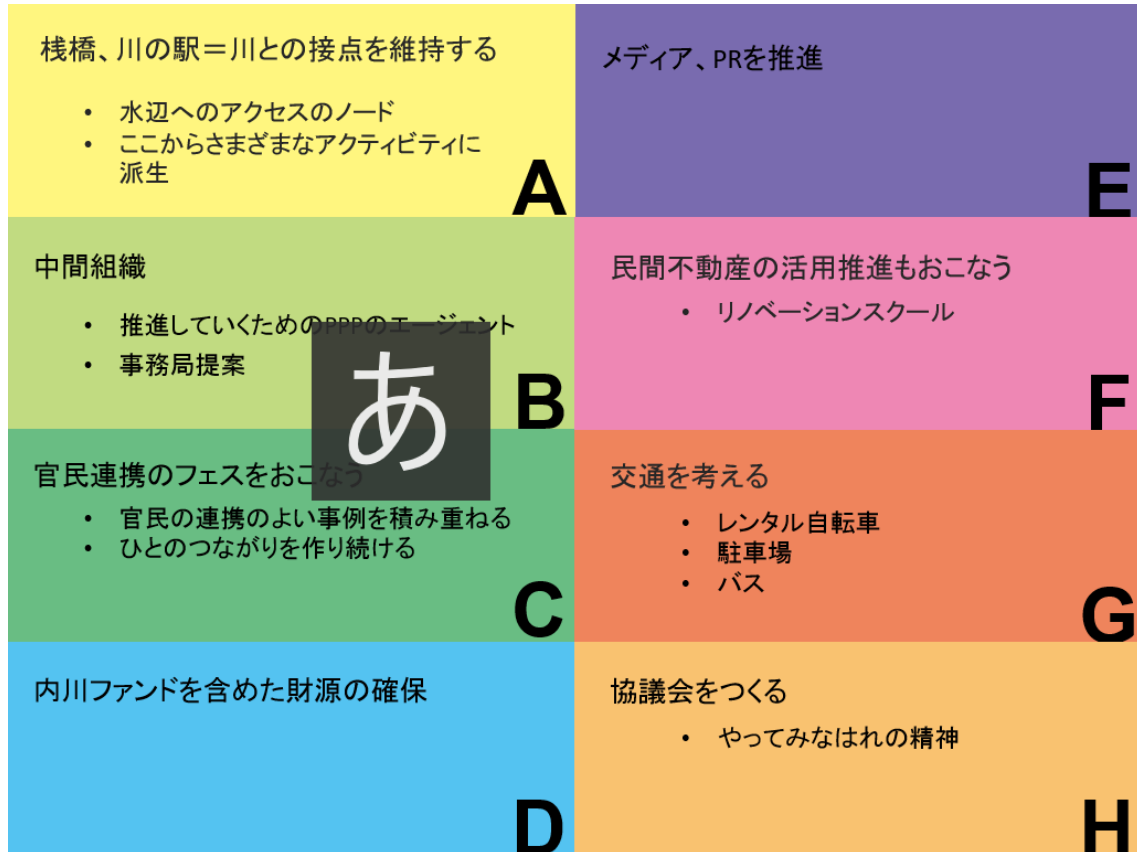


子供や大人が水辺でさまざまな体験ができるまち、という価値観。

教育を重視するまちに変貌する中心市街地にとって、体験を通して学べる場所が水辺に必要なのかもしれない。

2.2. 8つの仕組み

ワークショップで出された意見をもとに、和歌山市の水辺を魅力的にするために必要な仕組みを8つに分類した。



- A) 栈橋、川の駅＝川との接点を維持する
 現在、川を体験できる場所は非常に限られている。川へ物理的に近づく場所を整備してその場所からさまざまな水上アクティビティへのアクセスを生む。まずそのための接点をつくって日常的に運用してみる。
- B) 中間組織
 行政に任せるのではなく、市民も主体的に水辺のまちづくりにコミットするために、中間的な役割が必要。PPP エージェント、トライセクターリーダー。
- C) 官民連携のフェスをおこなう
 単にイベントをこなすだけではなく、官民の連携をよりよいものに構築して信頼関係をつくるためにイベントを行う。イベントをともに成功させることによって、多様な主体間で関係性を構築することができる。
- D) 内川ファンドを含めた財源の確保
 水辺のまちづくりを推進していくためには、財源が必要。官民で出し合ってファンド組成するなど、ともに作りあげていく考え方。

E) メディア、PR を推進

水辺の魅力を多様なひとびとに伝えるために、常に広報、メディア、PR を行い、その場所の価値を作り上げていくと共に、他者との関係性のなかから、物事を評価していく、という姿勢。

F) 民間不動産の活用推進もおこなう

水辺は公共空間だけではなく、民間不動産が面している部分もある。民間不動産が水辺に向けて魅力的になれば、和歌山市の水辺も魅力的になる。そういう視点でリノベーションスクールの枠組みを生かして水辺の魅力創出をする。

G) 交通を考える

中心市街地の水辺へやってくるさまざまな人々の動線を考え、自動車交通、公共交通、歩行、自転車、水上交通などを含めて総合的とらえて、水辺の魅力につなげる。

H) 協議会をつくる

これらのあたらしい取り組みを後押し、評価する地域の意思決定機関である協議会が必要である。

2.3. 短期中期長期目標

12 のバリューと 8 つの支える仕組みの達成時期を短期、中期、長期にわけて、やりやすいところから実践すると共に、中長期的にどうすればいいのか考えながらすすめる必要がある。考える主体は、和歌山市ではなく、和歌山市の水辺をどうにかしたいという関心のある方々すべて。

	12のバリュー(価値観) 2019.02	短期	中期	長期
1	きれいな川、綺麗な水にしたい 豊かな自然環境にしたい	認知度の向上*1	市民の機運が上がる*1	整備が始まる*1
2	居場所作り	椅子、本、ピクニック	サンドイッチもって座れる	子供が安全に遊べる 立ち止まりたくない場所
3	クルーズができる楽しめる街にしたい	イベントの船交通		レストラン船などの日常利用 日常使いの船交通
4	緑の環境づくり	芝生の広場 食べられるガーデン	桜を植える 野花 食べられるガーデン	
5	水上アクティビティがある街にしたい	SUP、カヌーなどの手漕ぎ	スワンボート、貸しボート	ウォーターポール ジェット、パワーボート、外洋へ
6	納屋河岸マルシェのにぎわいづくり	短期的なマルシェのもりあがり	日常的なマルシェ開催 周辺の商業にも好影響を あたえる	
7	歩ける水辺、走れる水辺。健康な水辺	毎朝ウォーキング	ウォーキングをしなくなる 環境整備 フットパスを町中にもつな げて整備	日常でつかえる水辺の道
8	いろんなイベントがおこなわれる水辺であ ってほしい。	花火、映画鑑賞	フェス。食フェス 水上パレード	
9	食文化が育まれる水辺	フードカー フィンガーフード	川床	牡蠣船
10	和歌山レガシー	来歴に沿った水辺のあたら しい姿	来歴に沿った水辺のあたら しい姿	和歌山の歴史とつなげる 来歴に沿った水辺のあたら しい姿
11	夜も楽しめる水辺	夜間営業する*1	夜も明るい夜間景観*1	飲み屋、BAR
12	学べる水辺	学べる	学べる	学べる

*1 目標の変更を行った(2017/2→2019/2)

	8つの支える仕組みと考え方	短期	中期	長期
A	棧橋、川の駅＝川との接点を維持する	水辺へのアクセスのノ ード ここからさまざまなアク ティビティに派生		
B	中間組織:事務局提案			推進していくためのPPP のエージェント
C	官民連携のフェスをおこなう	官民の連携のよい事例 を積み重ねる ひとつのつながりを作り続 ける		
D	内川ファンドを含めた財源の確保			内川ファンドを含めた財 源の確保
E	メディア、PRを推進	メディア、PRを推進		
F	民間不動産の活用推進もおこなう	リノベーションスクール		
G	交通を考える		レンタル自転車 駐車場 バス	
H	協議会をつくる	やってみなはれの 精神		

2.4. ペルソナ

2016年度の第2回ミズベ会議におけるワークショップでは、参加者に和歌山市の水辺を将来たのしむであろうペルソナを設定させて、そのひとが使う水辺のシーンを描いてもらうという試みを行った。

4つのペルソナが構想され、和歌山市の水辺を楽しむひとびとの姿を想像して、どのような水辺であるべきかを逆算してかんがえるきっかけとした。また、ワークショップで網羅できなかったペルソナ3つは事務局で追加した。

デートでともにすごせる水辺

ひろみと小泉はつきあいはじめて3ヶ月のカップルだ。もともとアウトドアが好きな彼らは、市内からちょっと足を伸ばすと、自然あふれるワイルドな環境がある和歌山を気に入っている。そんな彼らのもっぱらのデートは車でドライブなのだが、和歌山市内でピクニックをするこ

ともあって、最近ではさまざまな水辺の体験ができることも気になっていた。

朝からカップルでSUPの体験会に参加することで、お互いの知らない側面を知ることになった。また、和歌山を川からながめる機会をもった

彼らは、自分たちの地元がいかにか水辺とともに歩んできたまちなかに気がつく。今度はウォーターポールなんかもやってみたいと思う。

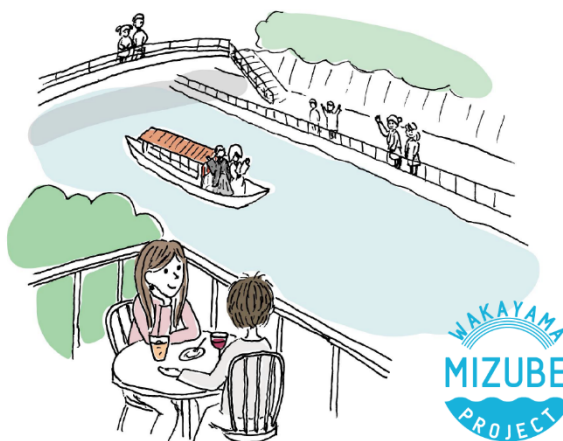
栈橋にもどると子供達が環境体験学習でわんさか集まっている。自分たちの子供の時代は川なんてあまり意識したことがなかったけど、最近の水辺はアフタースクールの場所になっていて、いきもの

観察のイベントは大人気ようだ。

終わった後は、さつき川からみえた素敵なカフェに寄ってみる。カフェは川が眺められるおしゃれな雰囲気、二人の時間がゆったりと過ぎていく。だんだん暗くなっていくカフェで、お酒を飲みながらさらに二人の距離は近くなっていく。外国人の楽しげな雰囲気があるのもこのあたりの魅力だ。カフェからは船上結婚式をあげた別のカップルがかっこいい屋形船で会場に向かう様子がみられた。

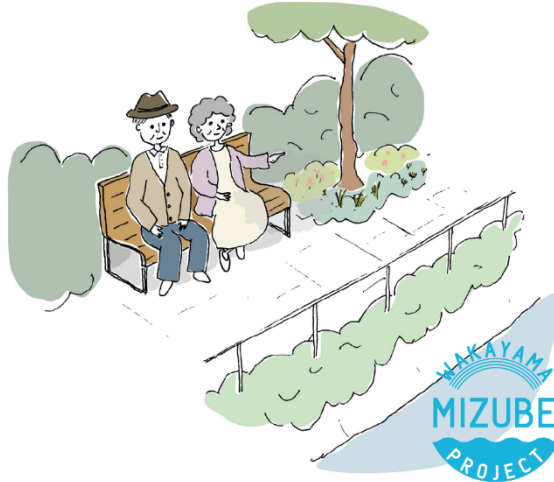
すこし酔いを覚ますために外を歩いてみる。川沿いは涼しい風がながれてとても気持ちがいい。今日は夜市がでていて、賑わいがある。広場ではジャズが流れていて、思わず投げ銭をいれてしまう。

こんな街だから、家庭をもつと豊かに過ごしていけそう。このまま環境意識が高まってくると本当に市内でも川でおよげるようになるのかもしれない。そんな五感で川を感じられる和歌山の魅力をポジティブに感じ、ふたりはふたりの和歌山で暮らす将来を感じながら歩いていた。



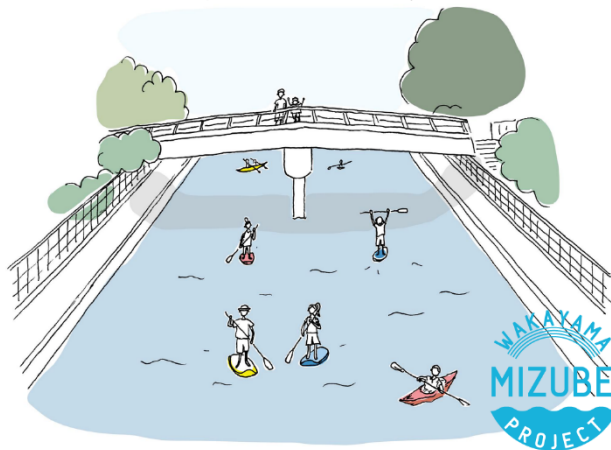
文化度が高い水辺で豊かな人生を模索する

徳川さん夫婦はリタイアをしても不動産のビジネスはまだやっていて、生活の安定は所有する不動産の大家業にかかっている。ふだんからよく夫婦でまちを歩いている。最近の市堀川の水辺にあるくと、なんだかバリのサンマルタン運河にいった新婚旅行のことを思い出す。最近の和歌山はほんとうに豊かな環境を手に入れ始めた。水辺でゆったりと時間を過ごせる広場とカフェ。歩きやすい動線。いろんなひとが行き来する川。水上のステージではコンサートが行われている。老若男女がめいめいの楽しみかたで過ごしている姿がみられる場所というのがいまの徳川さんたちにとって居心地がいい。週末には孫がきてくれる。孫たちもあそばせやすい環境があることがなによりこのあたりに住むことのメリットだと感じている。しばらく歩くと、いつも決まってお気に入りのベンチで座る。妻はいつもこのあたりの野花の栽培ボランティアをやっていて、四季折々の植物と触れ合えるのも魅力的。都心に住むとなかなか庭をもつことができないが、水辺自体が庭みたいなものだ。外食のまちとして最近発展目覚ましい和歌山。オーガニックな食材は近くからそれぞれの飲食店オーナーがこだわって取り寄せているものだ。オーガニックな外食がブームになってきていて、最近はそのようなライフスタイルにあこがれて、郊外から都心回帰のブームがやってきた。自分が所有する不動産物件も最近空室がなくなってきた。このような好循環をうまくコーディネートしてきた地元の官民連携の取り組みに、今度出資してみようと思っている。



若者たちが和歌山に戻って来なくなる水辺

この4人が集まるのは久しぶりだ。小中でいっしょだったが、その後キャリアを重ねるごとにだんだん縁が遠くなっていった。和歌山にのこるのこらないということより、自分のキャリアを積み重ねることのほうが重要だった4人が、昨日は同窓会で久しぶりに会ったのだ。明日もいっしょに和歌山で遊んでみようぜ。そういったのは東京で働いているケンだった。和歌山で最近はやりの朝 SUP をやってみたいと思ったこともあった。4人は朝7:00から二日酔いのまま SUP 体験会に突入り、テンション高いまま SUP をする。タカシは調子に乗って最後の最後に川で落ちてしまうが、昔とはちがって水質はだいぶ良くなっているらしく、なにげともなかったかのようにシャワーを浴びて朝ごはんを食べに行く。朝ごはんを街中で食べられるようになったのは最近のことらしい。子育てママたちも家事から解放されてまちなかで子供達を連れて朝ごはんを調達している。4人は最近はやりのサンドイッチを食べた。中身は紀伊水道でとれたサバの塩焼きだ。4人はドライブに行く予定にしていたのだが、SUP をやった疲れもあって、少し休みたかった。まちなかの芝生広場はライブがはじまったところだった。広場のはずれでハンモックを貸してくれるので、そこで4人で昔話をしているうちに寝てしまった。日が傾きかけて少し肌寒くなったころ、タカシは目を覚ます。すでにケンとれいこはいなくなっていて、きょうこを起こす。ふたりで近くのカフェに入り夜のレストランを確認する。タカシは和歌山の食材をつかったヌーベル和歌山キュービュの水辺の人気レストランを予約した。夜イルミネーションされた川沿いを歩きながら、こんな生活も悪くないなと感じて、和歌山での職探しを考え始めるタカシだった。



中心市街地に住むファミリー

和歌山の中心市街地に住む南方家。最近中古のマンションを買って暮らしている。職場はなんばで南海で通っている。妻は地元ではたらく共働き家庭。かつては、郊外に一戸建てをもって住むのが和歌山の王道のライフスタイルだったが、最近は中心市街地に家を持つことも選択肢になってきている。なぜなら、和歌山の中心市街地ならではの体験アクティビディが提供され始めたからだ。

そのひとつが、子どもたちのアフタースクールサービスの拡充。なかでも、自然体験とセットになったアフタースクールが大人気。水遊びがあったり、ボートに乗せてくれたり。生き物の観察が身近になったり。自分で考える力が伸ばせるということで定評がある。共働き世代の両親たちの子育ての負担を減らしつつ、子供達に座学だけでなく自然体験などをおして豊かな教育環境を提供できるのは、中心市街地が子供達にとって歩きやすく便利だからこそ。

積極的に子供達には今後さまざまな経験をさせていきたいとおもっているが、学校教育の環境とか、そのあとのアフタースクールの環境とか、子どもの遊び場の環境を考えると市堀川の水辺があることがほんとうに重要なのだ。

妻は、近所で働いている。アフタースクールに通わせているので、長い時間働いている。最近は扶養控除とかなくなってきたので、パート以外で仕事をしやすい環境を考えていたら、中心市街地に住むことが選択肢に入ってきた。なおかつ、子供達の教育を考えて、中心市街地に住むことを選んだが、間違っていなかったと感じている。

外食がしやすい環境だということも、共働き家庭にとってはとても重要。ふだんの家事が楽になることもあるし、子供を預けながら二人でまったりゆったりすごせる時間がこの水辺にあることも重要。



ここまでの案は、ワークショップで参加者が構想した。

川を綺麗にするソーシャルアクションに参加するマダム

川を綺麗にするごみひろいの活動は毎月第二土曜日。毎回 50 人ぐらゐが参加している。市堀川の京橋付近の陸上班と水上を流れるゴミを SUP を使ってごみひろいをする班がある。毎回、みんなおしゃべりをしながら楽しそうにごみひろいに参加していることがずっとつづいている理由。

住んでいるのはこの近く。川にはあまり関心なかったが、ここ最近市内の面白いイベントといえば、このあたりで開催されていることもあって、なんとなく気になってはいた。

ごみひろいのイベントは地元のニュースに掲載されたことがきっかけで参加するようになった。最初は自分だけで来ていたけど、最近はお子もいっしょに行くようになった。おしゃれなロゴとかウェブサイトが充実してきたのは、近所の男の子がデザイン会社をやっている、片手間にやってくれているかららしい。

内川をきれいにしようという運動自体はもう 50 年以上続いているみたい。そういうおじさんと知り合いになるのも面白い。

最近では、川を綺麗にしてもらうのではなく綺麗にするのは自分たちだという認識がひろがり、そのソーシャルアクション自体が、和歌山の誇りになっている。和歌山市がシビックプライド？みたいな取り組みをはじめ、生き生き活動している人々がたくさんいる街だと PR をしはじめたことが大きい。海外からも視察が来る。

自分たちで未来をつくる、というのがゴミ拾いからはじまるのが面白い。最近では下水のあり方とかにも関心ができて、いろいろとひろがりをはじめた。



川であそびながら学ぶ子どもたち

裕樹（小六）と小純（さあや）（小四）は夏休みのあいだ、どのサマースクールにいくかおとうさんと悩み、環境のことを学ぶことができるサマースクールを選んだ。

共働き世帯の川辺家は、夏休みに子どもたちがのびのびとすごせるサマースクールに通わせることにしている。遊びによりすぎたり、机にむかって勉強するだけのサマースクールもあるなか、遊びながら学べる体験型の学習ができるサマースクールはとても人気だ。

今日は、牡蠣がいかに内川をきれいになっているかを学ぶ授業だった。牡蠣を護岸からごっそり取ってみると、そこにはエビ、イソギンチャク、はぜなどがたくさんいて、生物の楽園だった。それらの甲殻類をもとめてクロダイやスズキがいることもわかった。

とってきた牡蠣をにごった海水にいれてみる実験では、1時間もすると水が透明になってびっくりした。

全国の牡蠣養殖の種が和歌山からひろまったこととか、牡蠣をたべさせる船が京橋にむかし浮かんでいたことなどを学習し、身近な市堀川がふだん食べるものとして認識していた牡蠣を通して、別の側面をもっていることを知った裕樹は、自由研究のテーマを決めたのだった。



川でセカンドキャリアを楽しむ

由規は、60歳で早期定年退職し、もっていた一般船舶免許を生かしたセカンドキャリアを楽しんでいる。

ずっと、船で釣りに行くことは趣味だった。あくまで自分だけの趣味で船に乗るといった感覚だったが、和歌山の和船をつかった船の運行が始まって、自分も船頭をやって人を乗せてみたくなった。

あるとき船頭の募集があることを知り、これはやるしかないとはじめたのだ。給料は安い。仕事は休日が多い。平日は暇だ。

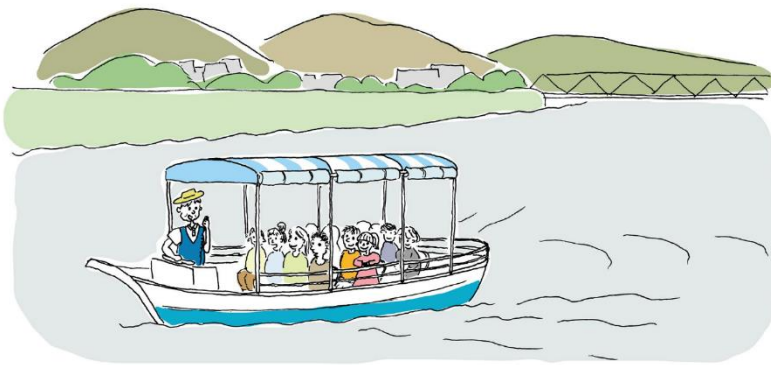
朝、弁当をもって船が泊まっている河口にいき、市駅の桟橋まで乗ってくる。なかまが4-5人いて、それぞれNPOのメンバーだ。

12人乗りの船を京橋から市駅を往復させるコースと、雑賀崎まで結ぶコース、和歌浦に行くコースがある。

お客さんは、和歌山市内を観光にきたひとが多い。和歌山城エリアと最近話題の酒ツーリズムをもとめた客が多い。黒潮市場があるポルトヨーロッパへいくコースは最近開拓中である。

だいたい、昼前から17:00ごろまでが仕事の時間。そのあとはだいたい飲み会だ。よく飲む人たちがあつまっている。ここは社交場になっていて、和歌山の川好き、水辺好きがよく集まって飲んでいる。

リタイアするまでこんな人生があるなんてまったく予想していなかった。



2.5. タスクフォース

具体的に社会実験を行うというフェーズになった時に、民間で社会実験に参加したいという人々はどれだけいて、どのようなことをやりたいのか。今後実際にどのようなチームでどのようなプロジェクトを推進したいかに関心層にヒアリングし、ミズベシンポジウムで、それぞれのチームごとに関心事を表明してもらった。このチームが実際にタスクフォースとして和歌山市の水辺の課題解決や魅力創出のために属人的に推進して下さることと思う。

#わかやま水辺タスクフォース #1

#棧橋アクティビティ・タスクフォース



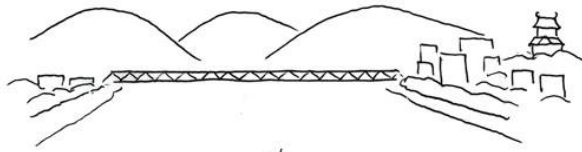
棧橋ができたときに
それをどうつかいこなすか、
ということを考えるタスクフォース

MEMBER

山本賢司さん(杏亭)
吉川誠人さん(紀州まちづくり舎)
大江“オーウェン”亮輔



#船タスクフォース



内川に船を
日常的に浮かべさせるための
タスクフォース

MEMBER

- 宮原崇さん(ゲストハウスRICO)
- 豊田英三さん(ユタカ交通)
- 島英雄さん(メガチューブ)
- 源じろうさん(proyect g oficina)
- 武内淳さん(水辺座)



船バル開催!

まちの飲食店のクーポンと船のクーポンを
くみあわせた、まちなかバルイベント!
船に乗って外食、飲みにでかけよう!



#川床タスクフォース

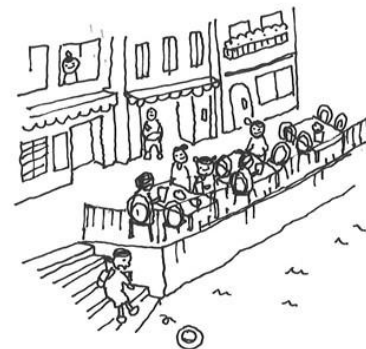


テラス席が川側に張り出すお店が増える

個人の飲食店の川側を
ゆたかな空間にして和歌山の
川の魅力を創出するタスクフォース

MEMBER

- 源じろうさん(proyect g oficina)
- 武内淳さん(水辺座)
- 岩西智宏さん(アトリエグリッド一級建築士事務所)
- 依岡善明さん(城善建設)



客席を水辺に置いた飲食店が立ち並ぶ

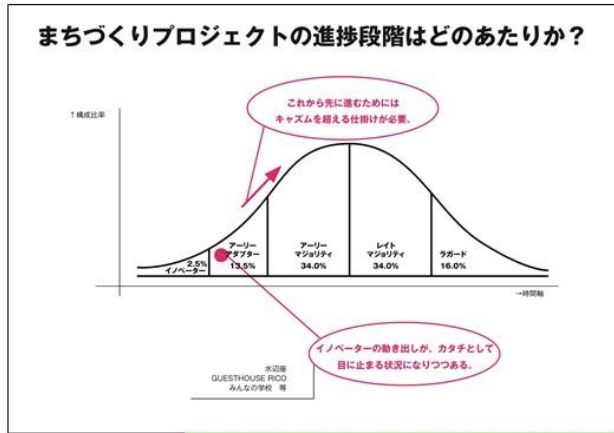
#PRタスクフォース

#わかやま水辺タスクフォース #4

水辺の価値を高めるために
メディア戦略をどうするかを
主体的に考えるタスクフォース

SNS発信とキャラクターの創出

**メディアの取材対象
「キャラクター」の
育成が重要!**



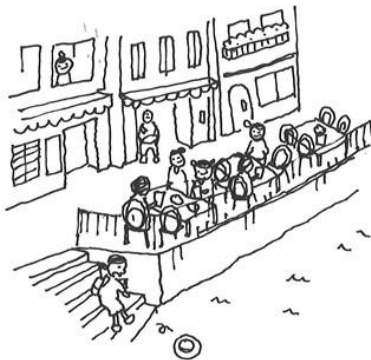
キャズムを超えよ！水辺のプロジェクト

MEMBER

- 下方聖司さん (In fact builders)
- 林 郁恵さん (まいぷれ)
- 岩本唯史さん (水辺総研)

#河川占有タスクフォース

#わかやま水辺タスクフォース #5



河川の規制緩和を仕組み化して、ゆたかな
公共空間を創出するタスクフォース

MEMBER

- 小堀さん (GRASS)
- 源じろうさん (proyect g oficina)
- 岩本唯史さん (水辺総研)
- 山本賢司さん (杏亭)
- 吉川誠人さん (紀州まちづくり舎)

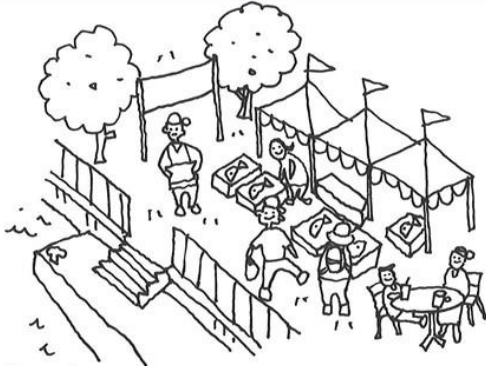


まちあるきで見つけた小さな宝 イスタスカ

#魚河岸タスクフォース

#わかやま水辺タスクフォース #6

京橋おさかなマルシェを開催！地物の魚を中心に！



漁港のポテンシャルコンテンツを
水辺の広場で実現する
タスクフォース

MEMBER

池田佳祐さん(雑賀崎住人)
武内淳さん(水辺座)



#酒蔵タスクフォース

#わかやま水辺タスクフォース #7

酒蔵の集客能力を最大化して、
和歌山にあらたなコンテンツと
風景を創出するための
水辺の官民連携タスクフォース



MEMBER

吉川誠人さん(紀州まちづくり舎)
三浦研祐さん(紀州まちづくり舎)
岩本唯史さん(水辺総研)
南方雅博さん(世界一統)

和歌山の水辺の酒蔵ツーリズム創出！



#水辺の食文化復活タスクフォース

#わかやま水辺タスクフォース #8

水辺のまちで食べ歩きができるようにして、来街者が増え、滞留時間をふやす(伝説の牡蠣船を復活させる)タスクフォース



京橋の広場で、牡蠣フェス!

MEMBER

吉川誠人さん(紀州まちづくり舎)
三浦研祐さん(紀州まちづくり舎)
岩本唯史さん(水辺総研)



伝説の牡蠣船



フィンガーフードフェス



#遊覧船タスクフォース

#わかやま水辺タスクフォース #9

和歌山城の遊覧船のアイドルタイムをつかって、市堀川で遊覧船実験するタスクフォース

市堀川での観光客ニーズはあるのかどうか？



MEMBER

吉川誠人さん(紀州まちづくり舎)
野井和重さん(内川をきれいにする会)

